

令和5年度 調査研究報告書

**「子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育を推進
するための校長の役割Ⅱ」**

福 井 県 小 学 校 長 会
福井県小学校長会調査研究委員会

はじめに

福井県小学校長会長 田中 範継

新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが、令和5年5月8日から5類に移行されました。それに伴い、各学校ではこれまで我慢してきた様々な活動が再開されるようになってきました。それらは、単にコロナ前の形に戻すだけではなく、新たな価値観や社会の変化に応じた新しい令和型の教育活動として展開されています。特に今年度はその転換期でもあり、今後の小学校教育の在り方を左右する大切な年でもあります。

今後しばらくは様々な創意工夫が大切になる日々が続くことが予想されます。皆さんで知恵をしばりながら乗り越えていきたいものです。

教員の働き方改革については、6月の骨太の方針案閣議決定、8月の中教審緊急提言により、これまで挙げられてきた内容が今後3年間で実現に向かう様相を呈しています。一方、学校現場では様々な業務改善を講じてきておりやや手詰まり感がつぶやかれる中ではありますが、教職員自身が自分事として働き方を見直し、日々の生活の充実や心身の健康を維持することによって教職人生を豊かにし、笑顔で子どもたちの前に立ち続けることができるよう、今後も業務改善を進めていくことが必要になっています。

さて、今年度も調査研究委員会のご尽力と会員のご協力により、調査研究報告書「子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育を推進するための校長の役割Ⅱ」が作成されました。本報告書は、全連小と連携した調査項目に本県会員の要望に基づく独自の調査項目を加え、我々校長が何を優先し、どのように対応しようとしているのか、何を強く要望しているのかが明らかにされています。また、まとめられた調査報告書の内容は、前年度と比較調査を行い、併せて全国との比較も加えています。このことにより、学校経営上の今日的課題がより明確になっています。本報告書では、設問毎に調査結果を基に考察が加えられており、それらの考察はなるほどと思うものばかりで、日々の学校経営の方向性を示してくれるものとなっています。

私たち校長は、組織の総力を挙げて課題解決に努めるとともに、積極的に政策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要があります。本報告書の調査結果を踏まえ、校長として現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、魅力的なリーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって教育成果をあげていかなければなりません。そのために、校長は自らの使命を自覚し、志高く学び続け、権限と責任のもとに、未来社会を創造する力を身につけた日本人の育成を志向して、活力ある学校・信頼に応える学校づくりに努め、本県の教育がさらに充実したものとなるよう舵取りをしなければならぬと考えています。

最後になりましたが、本調査研究報告書の発行にあたり、調査項目の設定、膨大な調査結果の集計、整理、分析、報告書の執筆に取り組んでいただいた調査研究委員各位、並びに調査にご協力いただきました県下各小学校長の皆様、関係各位に心よりお礼を申し上げます。

